

くまがや自治連だより

ひろば

第23号

平成30年1月発行

ホッと
くまがや

©熊谷市

仲間・空間・時間を
大切に

熊谷市自治会連合会副会長
松 永 勲

自治会は日常生活の中で最も身近なコミュニティ組織として存在します。しかし、自治会加入率の低下や後継者不足といった課題、近隣との交流が少なく地域のつながりが希薄化しているという現状があります。これらを解決し、「人と人とのつながり」や「地域の支え合い」を深めていく必要があると考えます。

くまがや自治連だより「ひろば」では、各自治会で取り組んでいる活動を紹介しています。近隣の方との交流に楽しさを見出し、その後、地域活動に積極的になった事例、見守り活動で子どもとの触れ合いから地域貢献に目覚めた事例、地域の文化財や自然に触れ地域に誇りを持った事例など創意工夫された取り組みには感動させられます。

人・家族・自然・地域とのふれあいを大切にしながら、「逢いたくなる仲間がいます」「行きたくなる空間があります」「楽しさを満喫できる時間があります」そんな地域となるよう自治会活動を実践していきたいものです。

会長挨拶



熊谷市自治会連合会
会長 岡部 宣明

新年明けましておめでとうございます。
昨年7月、前会長宮下良夫氏が逝去されました。長年にわたり、自治会の発展と運営に取組み、多大な功績を残されました。ここに、ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、昨年11月に平成29年度熊谷市自治会連合会臨時総会が大里生涯学習センター「あすねつと」において開催され、不肖わたくしが会長として承認されました。微力ながら職務にまい進する所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

来年2019年には、いよいよラグビーワールドカップが開催されます。昨年11月には試合日程が発表されました。熊谷ラグビー場では3試合が開催され、アルゼンチン・アメリカ・ジョージアの試合が行われることが確定しました。現在も予選が行われており、今年中には熊谷で試合を行う残り3カ国が決まります。また、今年8月には、県営熊谷ラグビー場の改修工事が完了する予定となっております。

これまで熊谷では、さいたま博の開催や彩の国まごころ国体の開催など数々のイベントを実施し、その都度自治会の皆様が大きな役割を果たしてまいりました。ワールドカップにおいても、国内のみならず世界各地からいらつしやる大勢のお客様をお迎えし、おもてなしの心をもって接し、ラグビータウン熊谷を市民の皆様とともに盛り上げてまいりたいと思っております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。会長就任の挨拶といたします。

臨時総会

本会会長宮下良夫氏の逝去に伴い、11月16日、大里生涯学習センター「あすねつと」において、自治会長156名の出席のもと、臨時総会を開催しました。

総会では、役員選出の議案が承認され、新たに熊谷市自治会連合会会長として岡部宣明会長（女堀自治会）、中央3区選出の副会長として内田功一会長（上植木自治会）が選出されました。

平成29年度講演会

11月16日の臨時総会終了後、講演会を開催しました。今回は、一般社団法人熊谷市ラグビー協会理事長の塚田朗氏をお招きし、「ラグビーワールドカップ2019を楽しもう」をテーマに講演していただきました。

講演は、前回のラグビーワールドカップイングランド大会の様子や日本代表の裏話、日本代表と南アフリカ代表との試合映像を使った解説など、ラグビー初心者にも分かりやすい内容で、参加者にとって、よりラグビーが身近に感じる講演会となりました。



◇石原一丁目自治会◇

会長 小彼 邦行

当自治会は国道17号の石原駅入り口交差点から北に進み、石原北交差点までの区間に位置する自治会です。国道の南側と北側に2分され、また東側は石原小学校に隣接し、171世帯(事情により一時休会中の世帯を含む)により構成されています。大橋町自治会と呼称した時代から現在に至るまでに高齢化が進み、自虐的な表現になってしまいましたが、どちらかというところと長寿会の構成員の方の活発な活動が自治会の土台を支え、比較的若い世代がこれまで連綿と運営されてきた自治会活動を護る…という構図です。

また、自治会役員の引き受け手がなかなか見つかからないという悩みも多分に漏れないところでありますが、幸い6ブロック22班の実務を輪番でこなしていた班長さん、ブロック主事さんが非常に協力的ですので、昨年の4月に着任した会長1年生の私が自治会開催イベントをどうにかこなすことができていると思っています。

以下、当自治会のイベントをいくつか紹介させていただきます。

敬老会

当自治会の行事は、主に秋から冬にかけて集中します。その一つが自治会主催の「敬老会」です。昨年は、敬老の日を過ぎた10月に開催いたしました。当自治会は集会所や寄合所を持ちませんので、イベントの多くは石原小学校の施設を開放してい

ただいて実施いたします。この運営にあたっては、石原小学校の先生方に陰に陽に、計り知れない協力をいただいております、この紙面を借りて深く感謝いたします。

対象の高齢者の方は90余名。歩いて数分のところで開催されるわけではありませんので、敬老会に参加いただける方は自ずと限られますが、長寿会民謡部の方たちを中心に集まっていたり、本年度も喜寿、米寿の節目に当たる方は市長さんから寿状と記念品を頂戴いたしました。

セレモニー終了後はおよそ1時間にわたり民謡部の方による練習の成果の発表と、会員の方によるマジックショー。10時から始まった敬老会は、あつという間に2時間が過ぎて、来年の敬老会での再会を約束して閉会しました。

クリスマス会

かつてこの地域にも「石原一・三子供会育成会」(二丁目と三丁目の一部で構成)があり、子供たちの野球やフットベースを応援していましたが、児童数の減少により維持が難しくなり、現在は地域内の児童の集まりがなくなりました。このため、自治会では一時、会員の貴重な協力を得て、試験的に秋の半日、サッカーゲームや体育館での軽体



操を数年実施しましたが、なかなか参加児童が増えなかったため、これも試験的に2年前から趣を変えて「クリスマス会」に変更いたしました。

「子供たちは地域の宝」。自治会としてどのよう
に支援できるかを模索しながらの実施で、まだまだ満足いく効果は表れていませんが、毎年5月頃に会員世帯の児童に図書カードを渡して、12月のクリスマス会でこの使い道を教えてもらおうという趣向です。図書カードは、できれば文字に親しむ…という意味で、図書の購入が望ましい旨を伝えていますが、子供たちが望むなら漫画や文房具の購入も差し支えない旨を伝えていきます。子供たちが教科書以外の文字、文章に接する機会を提供して、加えて子育て真つ最中の保護者の方たちの小さな手助けになればと考えています。



終わりに

時代の趨勢で新規会員の増加や未加入の方たちの加入啓発は難しいものがあり、自治会連合会の会議などでもこれらの話題が飛び交う現状ですが、地域と行政の橋渡し役となる自治会が果たす役割は、ほとんどの人が理解してくれています。

自治会加入のハード(障碍)となる要因はそれぞれ千差万別でしょうが、公約数としてのハードを見極めて、それを取り除くこと、せめて高い壁を削ることができれば、自治会組織の安定維持、ひいては発展につなげることができると考えて行動することを心掛けていきます。

◇見晴町自治会◇

会長 片岡 福蔵

わが町は全家庭数385戸を30班で構成された自治会で、荒川区区域では飛びぬけて戸数の多い自治会です。子供達は南小学校と荒川中学校に通学します。位置的には南は荒川土手に、そして西は荒川中学校に接する東西550m、南北300m程の広い地域です。町内には自治会活動の拠点となる荒川神社（集会所）と見晴公園が東西間のほぼ中間点に位置し、この公園は健康志向の高齢者の方々が朝のラジオ体操を年間通じて和気藹々としている広場でもあります。町の北東端には見晴郵便局、南西端には埼玉自動車学校があり、保育園が1つ、中型スーパーが2店舗、中型レストランが1店舗、その他のほとんどは二戸建て住宅で占められています。また、熊谷駅にも自転車で7〜8分と便利で、静かな住宅地域となっています。

少子高齢化の現状

4月の自治会総会の席でも報告いたしました。町内の家庭数が10年前と比較して30戸減少しました。5年前と比較しても15戸少なくなっています。いわゆる「空き家」も予想を超えて増えてき



第58回定期総会の様子：平成29年4月

ています。それに反して、9月の敬老会対象者は年々増加の傾向にあり、今年度は222名がお祝いを受けるようになりました。一方で、今年度の南小学校の新入学者数が、町内からはわずか9名とのこと。これが見晴町自治会の現状です。これからは高齢者に優しい町の運営を取り組むべき時になってきたのであろうと考えます。

復活した夏の納涼盆踊り大会

熊谷うちわ祭の荒川区山車建造の資金を抛出のため一時期中断していた納涼盆踊り大会を、平成28年度に5年ぶりに復活させ、復活2年目となる平成29年度も見事に実施できました。

盆踊りは2

日間開催し、ピーク時には200名を超える町民が盆ヤグラを囲む光景に、大会役員の疲れも吹っ飛びました。見晴町独自の色を出せる町民のイベント実施をと議論を重ねてきましたが、この納涼盆踊り大会は老人会・婦人会・小中子供育成会、そして踊りの会の皆さんの後押しで行われます。以前実施し



復活した盆踊り：平成28年8月

ていた頃と比べると、準備作業、運営などは手数を掛けずに済むように変わりましたが、新たに加わったヨーヨー釣りや輪投げは、幼児や小学校低学年の子供達にとっては大きな目玉になっています。

綺麗な町づくり、そして

見晴町を訪れてきた人から「町内が綺麗ですね」と言われることがあります。これは環境担当の役員さんたちによる献身的な日頃のゴミ集積所整頓と、それに呼応して清掃協力する町民のおかげです。

この町が子供達にとって「良いふるさと」になるよう頑張っている見晴町自治会です。



側溝の土砂・汚泥上げ：平成21年11月

見晴町自治会の情報はホームページで配信しています。

「熊谷市見晴町自治会」で検索可能です。

<http://www007.upp.so-net.ne.jp/lilies/toku-3.html>

◆自治会主催の敬老会◆

妻沼台自治会副会長 荻原 昭夫

妻沼台自治会は、妻沼地区の男沼に属しております。妻沼地区は昭和30年町村合併により、妻沼町、長井村、秦村、太田村、男沼村が合併して妻沼町になり、平成の大合併により熊谷市になりました。私達の自治会は国道407号線の西1キロほどに位置し自治会員数175軒があります。特筆すべきことは本村と、台中島地区と地域が1・5キロ程離れており、あたかも2つの自治会があるようです。

この地域は恩師の飯田國治校長先生が退職後に書かれた「我が台の風土記」に書いてあるように平安時代以前から我々の祖先が生活していました。利根川の氾濫による肥沃な土地で生計を立ててきました。社会環境の変化に伴い、専業農家は数件になってしまいました。しかし、地区内に妻沼青果市場があり、ネギ、かぶ、ほうれん草、人参、大和イモなどの出荷があり、土曜日を除く毎日午後2時からセリが行われています。皆さんぜひ市場のセリの風景などご覧にお出かけください。市場の社長さんが大歓迎してくれると思います。

自治会の役員任期は2年で選出方法は年



齢順に決まります。自治会の役員選出に苦勞して大変だったことがあり、先輩達が考え出した公平な方法だと思えます。この選出方法により、平成28年度、29年度は昭和21年生まれの我々が自治会三役として運営を任されている訳ですが、同級生3人で気が知れていますので、月に数回同窓会を行っているようなものです。

敬老会

表題の敬老会について述べたいと思います。自治会の一大イベントに頭を悩ませていました。どの様にすれば？段取りは？皆さんに喜んでいただくには？以前はどのように実施していたか？予算は？等々自治会三役で悩みを話し合いました。妻沼台の自治会は会長も副会長も15人の組長も全員一緒に交代してしまう訳ですから、誰も前年度の経験者がおりません。

前任の自治会先輩に聞きながら計画を立てました。そして、我々らしい何かを出したいと計画したのが次のような敬老会です。

まず「出席者と欠席者の恩恵の差を少なくすることです。このため考えたことは、敬老会に欠席する人は個別に訪問して敬老会記念の写真を撮り、額に入れて差し上げることとしました。

もうひとつは記念の写真を撮影することです。これは一枚の集合写真を撮ることももちろんですが、メヌマラドン温泉で金婚式・喜寿の賞状を頂く様子、芝居見学の様子、



歓談の様子、又会場のご厚意での参加者の余興の様子などを撮影し、家のテレビで何度も楽しめるようにDVDに編集して参加者に差し上げました。表紙には勇舞劇団の中村時太郎座長の美しい女装姿を利用させていただきました。



後日、敬老会出席者の家に行く機会がありました。記念の写真が額に入れられて飾られているのを見た時、「ああ、やってよかったなあ」と思いました。

このようなイベントが出来たのも、先輩たちが筋道をつけてくれたおかげであり、市からの喜寿・金婚式の賞状・記念品の授与、そして何より感謝しているのは、補助金を頂くことです。少ない自治会費から敬老会の費用を捻出するのに頭を痛めている我々には大助かりです。

今回記念に残る物を作りましたので「費用が大変かかったんべー」という声も聞かれませんでしたので、総会で昨年度と比較して同じようだと資料で説明いたしました。皆様のご協力で無事に開催できたこと、御礼申し上げます。



平成29年度県外研修

10月5日、全自治会長を対象とした県外研修を茨城県鹿嶋市で実施しました。今年度のテーマは「2002年サッカーワールドカップ開催地の取組に学ぶ」でした。研修概要は以下のとおりです。(詳細は熊谷市ホームページで公開しています。市ホームページ内で「平成29年度県外研修」でキーワード検索すると該当ページが見つかります。)

研修概要 (鹿嶋市交通防災課 林 益弘 様による講演)

(1) 鹿嶋市の概要

鹿嶋市は茨城県の東部に位置します。海洋性気候で温暖です。人口は67,800人ほどで、横ばいか微増傾向にあります。市の中心部に鹿嶋神宮、南部に鹿嶋臨海工業地帯、北部にカシマサッカースタジアムがあります。



(2) アントラーズの誕生

鹿嶋市といえば、鹿島アントラーズですが、その誕生には住友金属工業が関わっています。住友金属工業は鹿島臨海工業地帯で操業する企業ですが、鹿島アントラーズは住友金属工業のサッカー部がJリーグ参入にあたりプロ化したチームです。当初Jリーグ参入は99.9999%無理だと言われていましたが、世界的トッププレイヤーのジーコの加入、署名活動による集客運動、スタジアム新設を行い、Jリーグ参入を実現させました。そして、初年度からいきなり優勝し、アントラーズ人気が一気に盛り上がりました。地域の方々もスポーツボランティアとしてチームに携わっています。また、1990年代には、日本でのワールドカップ開催が話題になりました。ワールドカップの会場に選ばれることで更なる飛躍を目指し、「鹿嶋からKASHIMAへ」をキャッチフレーズに招致を進めることになりました。

(3) ワールドカップにむけて

招致活動が実を結び、1996年にカシマサッカースタジアムが会場に選ばれました。しかし、鹿嶋市はあくまでも会場がある都市という立場で、何か取組を実施するにしても様々な厳しい制約がありました。このような状況でしたが、ワールドカップ成功のため、基本方針「国内外から訪れる方々に鹿嶋らしさを前面に出した温かみのあるワールドカップを作り上げるとともに、市民の多くが何らかの形で参加できるワールドカップを推進する」を策定し、市民参加の第一歩として市民懇話会を設置しました。この組織は市内の主要団体全てが参加した組織で、FIFAなどの上部組織からの情報や市の考えの共有を図りました。さらに、①ホスピタリティ、②インフォメーション、③セキュリティの3つの柱のもと各種事業への取組を推進しました。

①ホスピタリティでは、シティデコレーション(国旗掲揚で気運向上)、花いっぱい運動(スタジアム周辺道路を花いっぱいにする運動)、一斉清掃、観光ボランティアなどの事業を実施しました。また、自発的に外国人観光客向けに箸袋をプレゼントしたり、合唱団を結成し合唱を披露する動きもありました。このような運動は、ワールドカップ終了と同時に無くなると思っていましたが、今も活動が継続しているものが多く、市民の大きな力を実感しました。②インフォメーションでは、市役所に24時間6カ国語対応の対策本部を設置しました。また、市民向けニュース広報の発行や地元FMラジオへの出演で情報発信に努めました。③セキュリティでは、県警と連携し、自治会など地元住民からの不安な声をひとつずつ安心に変えていきました。



(4) ワールドカップが残したもの

ワールドカップの開催によって、インフラも整備されましたが、私達一人ひとりが鹿嶋市への誇りを持てるようになったことは大きな財産です。このことは、2020年の東京オリンピックにも生かせるのではないかと思います。もうひとつの財産は、韓国西帰浦(ソポギ)市との姉妹都市の関係を築けたことです。一過性で終わるのか、終わったあとも何らかのつながりが残るのか、この違いは非常に大きいと思います。

平成29年度座学研修

8月24日、江南公民館において、座学研修を開催しました。この研修は、自治会長同士の自治会運営に関する気軽な情報交換の場として企画し、今年度で2回目の開催になります。

今回は、事前にテーマを設定し、役員の選出方法、自治会未加入者への対応、ゴミ集積所の管理など関心のあるテーマ別にグループを組んで話し合いました。

話し合い終了後には、グループごとに話し合いの内容を発表し、参加者からは「他地区の会長の話が聞けて大変参考になった」との声が聞かれました。



第7回親睦グラウンド・ゴルフ大会

9月25日、くまがやドームにおいて、熊谷市グラウンド・ゴルフ協会の協力のもと、第7回親睦グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。今年度も自治会長同士の交流と健康増進を目的に、ランダムでチームを編成し、競技を実施しました。

当日は前回は上回る102名の自治会長の参加があり、初心者から経験者まで和気藹々とグラウンド・ゴルフを楽しみました。



平成29年度市長との懇談会

11月27日、妻沼行政センター会議室において、市長との懇談会を開催しました。今年度は、「新しい任期にあたっての施政方針」、「ラグビーワールドカップ2019開催に向けた市の取組」について市長から説明を受けた後、自治会や地域の課題等について意見交換を行いました。



立川市自治会連合会の研修受け入れ

11月22日、立川市自治会連合会の視察研修を受け入れました。この研修は、立川市自治会連合会から熊谷市の自治会加入促進活動ほか活動全般についての視察依頼があり、実現したものです。

当日は、立川市自治会連合会から自治会長等93名が出席し、熊谷市自治会連合会からは正副会長が出席しました。熊谷市の概要、熊谷市自治会連合会の事業や単位自治会の活動事例を紹介したあと、自治会費の徴収、転入者への対応、ゴミ集積所の管理等について、活発な意見交換が行われました。



九州北部豪雨災害募金活動

九州北部での豪雨災害の発生を受け、熊谷市自治会連合会では募金活動に取り組んで参りました。募金活動は9月で終了し、293の自治会から総額9,889,475円の募金が集まりました。皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。

お預かりしました募金は、日本赤十字社埼玉県支部を通じて、被災地へ送金いたしました。ご協力いただきました自治会一覧は熊谷市ホームページで公開していますので、ご覧ください。(市ホームページ内で「熊谷市自治会連合会九州北部豪雨募金活動」でキーワード検索すると、該当ページが見つかります。)

編集後記

第23号「ひろば」の発行にあたり、各自治会のご活躍についての発表、又各地域のご紹介をいただきました。ご寄稿いただきました皆様に感謝申し上げます。今回、熊谷市自治会連合会の会長に、新たに岡部会長が選出されました。幅広い豊かな経験を持つ人格者であります。今後の運営に期待をしております。住み良い地域を目指すにあたり様々な問題点がありますが、特に空き家問題、ひとり暮らしの住宅の増加など少子高齢化によって引き起こされる問題が自治会に迫り来ると思っております。これらの問題を放置しておく、不審者侵入や放火、不法投棄などの危険性が増し、周囲に悪影響を及ぼすような事態が発生しかねません。現実から目を背けず、地道な取組が必要になると考えております。

全ての自治会の皆様の今後のますますのご活躍とご発展を心より祈念申し上げます。

熊谷市自治会連合会副会長 嶋田 忠男